



この用紙の使い方

600字は指定字数のなかでもとくに短く、要素を絞る力が問われます。この用紙には経済学部・工学部の例文をそれぞれ1本ずつ載せています。自分の志望学部に近いほうを読み、「どこが効いているか」を確認したうえで、最後の「書き換えるときに変える場所」に沿って自分の言葉に置き換えてください。丸ごとの流用は避け、骨組みだけを借りる使い方を想定しています。

600字 経済学部の例文(実556字)

私が経済学部を志望する理由は、探究学習で取り組んだ商店街調査にあります。地域の商店街で「人通りが多いのに空き店舗が減らない」という状況に気づき、自治体が公開する人口統計と空き店舗率、商店街組合が作成した来街者アンケートを照らし合わせて要因を調べました。賃料の推移だけでは説明がつかない部分が多く、価格が需要と供給だけで単純に決まるわけではないことを実感しました。調べる中で、店を続けるかどうかの判断には家賃だけでなく、後継者の有無や近隣との関係といった数値化しにくい事情も関わっていることが分かりました。一方で、来街者アンケートの回答数が少なく、世代ごとの傾向までは十分に読み取れなかった点は、今回の調査で確かめきれなかった課題として残っています。この経験から、人がなぜ合理的とはいえない選択をするのかという行動経済学の視点に関心を持つようになりました。貴学部を志望するのは、統計データを扱う演習が学部の早い段階から用意されており、探究で使った資料の読み方をより体系立てて学び直せると考えたためです。将来は、地域の経済データを読み解き、必要な情報を分かりやすく発信できる立場を目指しています。そのための土台として、価格の裏側にある人の行動を、数字と理論の両方から捉える力を貴学部で身につけたいと考えています。

この例文のどこが効いているか

- ・冒頭の1文で「探究のきっかけ」を先に出し、志望理由の根拠を後から積み上げる順番にしている
- ・「賃料の推移だけでは説明がつかない」「回答数が少なく十分に読み取れなかった」のように、調べて分かったことと、分からなかったことの両方を書いている
- ・学部で学びたいことを「演習がある」という具体的な制度に結びつけ、志望理由が抽象論で終わらないようにしている

600字 工学部の例文(実556字)

私が工学部を志望する理由は、探究学習で取り組んだ校内の空調ムラの調査にあります。教室によって体感温度に差があることに気づき、温湿度センサーを4つの教室に設置し、1週間分の温度・湿度・在室人数のデータを記録しました。窓の向きや在室人数との関係を見ると、設定温度だけでは説明できない差があり、建物の構造や換気の仕組みが体感に影響していることが分かりました。西向きの教室は午後になるほど温度が上がりやすく、廊下側の教室は在室人数が増えても比較的差が小さいという傾向も見えましたが、原因までは特定できませんでした。センサーを設置した教室数が限られていたため、校舎全体の傾向として言い切れるかどうかは今回のデータだけでは確かめできていません。この調査を通して、原因を一つに決めつけず、複数の条件を切り分けて確かめる姿勢の大切さを学びました。貴学部を志望するのは、建築や環境工学の分野で、実測データをもとに設計を見直す演習があると知り、探究で行った測定とデータの整理を、より専門的な手法で学び直せると考えたためです。将来は、使う

人の体感と数値の両方を確かめながら、快適さと省エネルギーを両立できる設計に関わる仕事を目指しています。そのための第一歩として、貴学部でデータに基づいて仮説を検証する力を身につけたいと考えています。

この例文のどこが効いているか

- ・「設定温度だけでは説明できない」「原因までは特定できませんでした」と、単純な結論に飛びつかず条件を切り分けたプロセスをそのまま書いている
- ・探究で使った手法(センサー設置・データ記録)を、学部で学びたい内容と同じ言葉でつないでいる
- ・将来像を「快適さと省エネルギーの両立」のように、対立する2つの要素をどう扱うかという形で示している

800字からの圧縮のしかた

800字の下書きが手元にある場合、次の順番で削ると600字に近づけやすくなります。

- ・エピソードの説明を1つに絞る。複数の出来事を並べている場合は、志望理由に最も直結する1つだけを残し、残りは思い切って削る
- ・数値や固有名詞の説明を短くする。「〇〇という制度で〇〇円の予算が」のような細部は、志望理由を支えるために必要な最小限だけ残す
- ・「学んだこと」を1文にまとめる。段落ごとに気づきを書いていた場合、最も伝えたい1文だけを残し、他は削るか短縮する
- ・将来像と学部の結びつきを1つの文でつなぐ。「将来は〇〇をしたい。そのために貴学部で〇〇を学びたい」の形にすると、2文が1文に圧縮できる
- ・削ったあとに声に出して読み、意味が通らない箇所がないか確認する

600字で外せない3要素

- ・きっかけ:探究や日常での気づきなど、志望理由の出発点になった具体的な場面
- ・調べて分かったこと・分からなかったこと:調査や学習を通して得た情報と、まだ確かめられていない部分の両方
- ・学部での学びとの接続:学部の授業・演習・研究分野など、確認できる情報と自分の関心をつなげる1文

書き換えるときに変える場所

上の2本の例文は、探究のテーマと調べた対象を入れ替えれば、そのまま構成だけを使い回せる形にしています。書き換えるときは次の3か所を自分の内容に置き換えてください。

- ・冒頭の「探究学習で取り組んだ〇〇調査」の部分を、自分が実際に調べたテーマに置き換える
- ・「賃料の推移」「設定温度」のような、調査で使った具体的なデータや観点を、自分の探究で扱った内容に置き換える
- ・「貴学部を志望するのは〇〇という演習があるため」の部分は、志望する大学の公式サイトやパンフレットで確認できる授業名・制度名に置き換える。確認していない情報のまま出さない

参考

- 各大学の学部案内・公式サイトに掲載されている志望理由書の字数指定・提出要領(大学ごとに異なるため、出願前に必ず確認)

記入して使う配布用の様式です。印刷してお使いください。

<https://toinotane.com>